

令和7年度 一関市立藤沢中学校

第2回 学校運営支援協議会

期日：令和7年12月8日(月)

13:30～15:00

場所：藤沢中学校 会議室

《 次 第 》

1 開 会

2 校長挨拶

3 協議

(1) これまでの学校運営について

(2) 熟議「より良い学校・地域づくりをするためには」

(3) その他(情報交換含む)

4 その他

5 閉会

一関市立藤沢中学校 学校運営支援協議会名簿

	氏名	役職等	備考
1	星 義 弘	藤沢町住民自治協議会 会長	会長
2	櫻 井 博 勝	学識経験者	副会長
3	鈴 木 み え	学識経験者	副会長
4	佐 川 勝 弘	一関市社会福祉協議会 藤沢支部長	
5	千 葉 英利子	一関市食生活改善推進協議会 藤沢支部 会長	
6	千 田 恵 子	藤沢町主任児童委員	
7	佐 藤 聖 子	新沼保育園 園長	
8	菊 地 慶 正	藤沢中学校 P T A会長	
9	大 川 憲 一	藤沢中学校 校長	
1 0	佐々木 済 通	藤沢中学校 副校長	

協議

- (1) これまでの学校運営について（資料別紙）
- (2) 「より良い学校・地域づくりをするためには」（生徒との熟議）
- (3) その他（情報交換含む）

令和7年度 一関市立藤沢中学校 第2回 学校運営支援協議会
これまでの学校運営について（資料）

1 生徒指導関係

(1) 学校不適応

ア 状況（欠席30日以上の子の状況）※10月まで

	1年	2年	3年	計
不登校				
別室登校				

イ 対策

- ・関係者で速やかに情報共有するとともに、校内生徒支援委員会、運営委員会、職員会議で情報交換を行っている。
- ・保護者と面談を行い、状況の確認と今後について話し合い。
- ・関係機関との連携（市教育研究所（教育相談員）、県南教育事務所（在学青少年指導員）、児童相談所、医療機関、市こども家庭課、児童委員、県警スクールサポーター等

(2) いじめ

ア 状況

- ・いじめとして認知は現在のところ1件。現在は解消している。
ただし人間関係のトラブルはあり、その都度対処している。

イ 「いじめ防止基本方針」に基づく対応（毎年見直し）

- ・デイリーライフ、生活アンケート、教育相談（1学期に1回ずつ）、
年2回のQ-U検査、月1回のいじめアンケートにより未然防止、早期発見に努めている。

2 学力向上（諸調査の分析結果から）

(1) 全国学力・学習状況調査（3年）

	国語	数 学	理科（I R Tスコア）
本校平均正答率			
県平均正答率	54.0	43.0	50.1
全国平均平均正答率	54.3	48.3	50.3

ア 成果

- ・「1、2年生の時に受けた授業でタブレットなどICT機器をどの程度使用したか」の質問項目の積極肯定が県比■■■■全国比■■■■と高い数値となっており、日常的にタブレットなどのICT機器を活用した授業が行われている。
- ・国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が県比・全国比を越えており、漢字や語彙が定着しつつある。

イ 課題

- ・ 教科を問わず、根拠を見つけ出す力、問題文や資料から解答に必要な条件を読み取る力が不足している。
- ・ 学習時間の不足、朝食の有無、起床・就寝時間の乱れといった生活リズムの確立が必要である。
- ・ I C Tを活用した授業が実施されているものの、機器を使った情報を収集・整理する力、機器を使って発表する力には課題がみられる。

○県学習定着度状況調査（２年）

	数 学	英 語
本校平均正答率		
県平均正答率	4 5 . 1	3 7 . 3

ア 成果

- ・ ほぼ全員が家庭学習に取り組むことができている。「藤っ子学びプラン」にて提示されている目標時間（90 分以上）が意識されているためか、1 時間以上～2 時間未満の人数が最も多い。取り組み方に対する指導・支援だけでなく、学びの中核となる教科でも“わかる授業”を展開していきたい。

イ 課題

- ・ データの活用の領域に課題がみられる。他教科においてもグラフや表などの資料活用場面においては、「何を示している資料なのか」、「分かることは何なのか」といった読み取りを丁寧に進める必要がある。また、資料を比較する場面においても丁寧な支援が必要である。
- ・ 2 年生の 37.5%が平日 2 時間以上スマホ・携帯電話を利用している（TVなどは除く）。なお、英語は最下位層、数学は中下位層を中心にメディアの長時間利用がみられる。

○新入生学習定着度状況調査（１年）

	国 語	数 学
本校平均正答率		
県正答率	5 4 . 7	4 3 . 9

ア 成果（小学校との情報共有の結果）

- ・ 「根拠に基づいて自分の考えを書く」の項目が、昨年度 [] に比べて高い数値 [] であり、小学校からの積み重ねが成果として表れてきた。
- ・ データの活用の領域が県比 [] と高い数値であり、データの特徴や傾向を読み取る力が養われていると考えられる。

イ 課題

- ・ 「話すこと・書くこと」に関する問題はすべて県比を下回っており、話の要点や内容を正しく理解する力に課題がある。
- ・ 図形領域やグラフの読み取りに困難さがみられる。特にグラフ資料の読み取りには支援が必須である。

- ・ 約 38%の生徒が平日 2 時間以上スマホ等を余暇として使用している。最下位層には 3 時間以上、4 時間以上の生徒がみられており、生活リズムの乱れが心配される。

3 部活動（記録は中学校体育連盟及び吹奏楽連盟主催の入賞のみ）

(1) ソフトテニス部（男子）

一関地方中学校総合体育大会 団体準優勝 ※県大会出場ベスト 8

一関地方中学校新人大会 団体準優勝 ※県大会出場

(2) ソフトボール部

一関地方中学校総合体育大会 優勝（千厩中・大東中・川崎中・一関中と合同）

岩手県中学校総合体育大会 準優勝 ※東北大会出場ベスト 8

一関地方中学校新人大会 優勝（千厩中・大東中・東山中と合同）

岩手県中学校新人大会 第 3 位

(3) 卓球部（男子）

一関地方中学校新人大会 第 3 位

(4) 吹奏楽部

岩手県吹奏楽コンクール県南地区予選 銀賞 ※県大会出場 銅賞

※ その他野球部、サッカー部、ソフトテニス部（女子）、卓球部（女子）、美術部、特設駅伝・陸上部が活動している。

※ また下記の地域クラブチームに所属して活動している生徒もいる。

バレーボール女子（B L A I S E 一関） ※中総体・新人大会とも一関地区準優勝

バレーボール男子（いわいクラブファイターズ）

サッカー（千厩 F C）

4 学校評価アンケートの結果（概要）と考察

【生徒アンケート】

※ 肯定的回答…「あてはまる」、「だいたいあてはまる」

		質問項目	肯定的回答 (%)	達成目標 (%)	備考
確かな学力の定着	1	授業の内容がわかる	90.2	85	教科の平均
	2	授業に意欲的に取り組んでいる	92.1	85	
	3	将来に夢や目標はある	71.4	75	
	4	家庭学習の時間	39.8	70	1, 2 年生 90 分、 3 年生 120 分以上
	5	家庭学習では宿題だけでなく自分で課題を決めて取り組んでいる	46.8	60	
性人か の間な	6	学校は楽しい	92.1	90	
	7	他人を大事にし、思いやりをもって行動している	95.2	90	

	8	ルールやマナーの意味を考え、約束を守って行動している	96.8	90	
	9	場に応じた気持ちの良い挨拶や返事ができる	96.0	90	
	10	読んだ本の冊数	31.0	70	年間 10 冊以上
	11	ボランティアや清掃など、誰かのための活動に取り組んでいる	71.4	80	1 年間で 10 冊なので現時点で達成していなくても可
健やかな心身の育成	12	デイリーライフを使って 1 日の生活を振り返っている	93.7	80	
	13	自分の健康に関心がある	84.1	80	
	14	家庭でのインターネット利用時間	65.1	70	2 時間未満
	15	1 日の運動時間	56.3	70	1 時間以上
その他	16	地域の活動に積極的に参加している	51.6	60	
	17	インターネットの利用について保護者とルールを決めている	74.6		
	18	睡眠時間について	88.9		6 時間以上
	17	朝食を毎日食べている	96.8		
	19	家の手伝いをしている	81.0		
	20	夏型制服と運動着の着こなしのルール変更についての感想	93.7		

【保護者アンケート】

	質問項目	肯定的回答 (%)	達成目標 (%)
1	お子さんは早寝早起きの習慣ができている	48.8	
2	お子さんは毎日朝食を食べている	96.4	
3	家庭内で積極的にあいさつや会話を行っている	97.6	
4	お子さんに家族の一員として手伝いをさせている	78.6	
5	お子さんが家庭学習に集中して取り組める環境づくりに努めている	82.1	
6	家庭でインターネットの利用についてルールを決めている	64.3	
7	「居間 9 ルール」が徹底されている	32.1	
8	学校は、学校の情報を積極的に発信するとともに、保護者や地域の声を収集し、教育活動に生かしている	89.3	80
9	学校は、地域の活動に積極的に協力している	89.3	85
10	夏型制服と運動着の着こなしのルール変更についての感想	97.6	

- ・ 毎年課題として挙げられている**家庭学習の習慣**については、いまだ定着が不十分という結果である。中学生ともなれば自主性を尊重したい、という家庭の声もあるが、習慣として定着するまでは家庭による声かけも必要と考える。
- ・ 「家庭学習では宿題だけでなく自分で課題を決めて取り組んでいる」という質問項目が昨年度よりも大きくポイントを下げた（昨年は 59.3%）。同じく評価の低い「将来に夢

や目標はある」と関連して（昨年とほぼ同じだが、目標値より低い）、「学習に向かう目的意識の育成」が重要である。

- ・ 「まなびフェスト」において、目標値は設定していないが、**早寝早起きや食事、インターネットの利用（時間制限やルールの設定）など、望ましい生活習慣の確立**についてさらに改善が必要である。生徒たち自身が自分の生活を振り返る機会を設け、意識を高めていくとともに、家庭への協力の呼びかけも今まで以上に行う必要がある。
- ・ ボランティアや地域活動への参加についても目標値よりも低い。改めて地域の関係機関と連携し、これらの活動に参加する意識を育てていくとともに、具体的な活動の周知に努めていきたい。
- ・ その他、自由記述では、夏季の制服変更（着方のルール変更）について評価するご意見とともに、遅すぎたというご指摘も頂いた。またグラウンドの環境整備、体育祭での雨対策、学校からの文書について、まなびポケットを活用してさらにペーパーレス化を図るべきとのご意見も頂いた。検討し、改善に努めたい。